

大規模災害による地域文化財の復興支援

くま川鉄道川村駅祠 再建

活動期間：令和4年4月～令和5年2月



熊本県立球磨工業高等学校 建築科

令和5年3月1日

概要

- ・本校建築科には、伝統建築に関する知識や技術を学ぶ伝統建築コースが設置してある。
- ・そのノウハウを活かし、熊本地震や令和2年7月豪雨などによって被災した地域文化財の修復・再建を行っている。
- ・くま川鉄道株式会社も令和2年7月豪雨により、甚大な被害を受けた。



↓現在の川村駅



活動内容

- ・くま川鉄道川村駅祠の再建及び仮設置用の台座の制作。



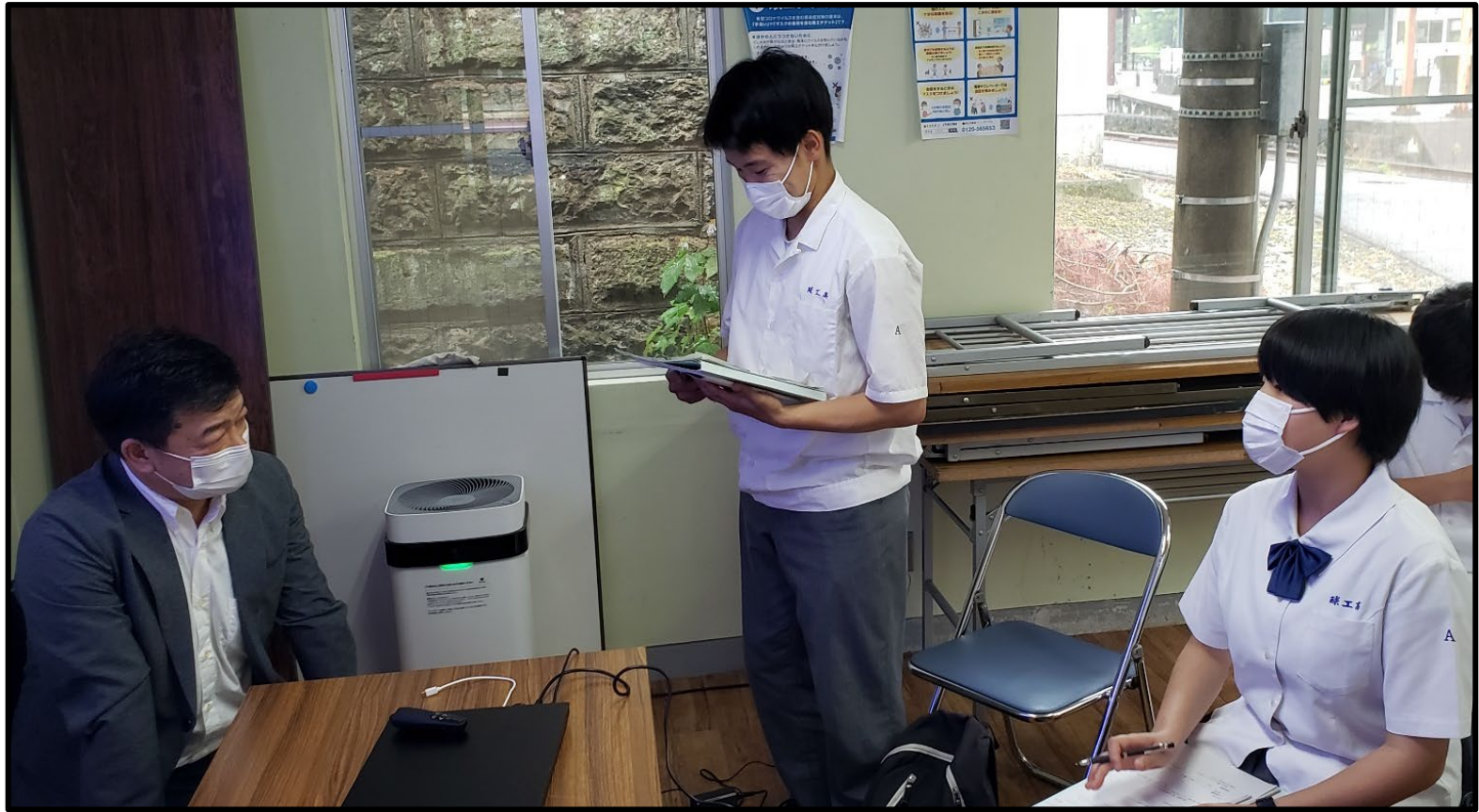
↑ 流出前の川村駅祠

活動目的

- ・祠再建による地域復興への応援。
- ・生徒の伝統建築に関する技術の向上。
- ・生徒の伝統建築に関する知識の獲得。



打ち合わせ



- ・川村駅に訪れ、くま川鉄道株式会社の想いを聴いた。
- ・くま川鉄道株式会社と生徒が直接打ち合わせを行い、各所の納まり等を相談・決定した。



原寸図の作成



- ・部材の反りを決定し、型板を作成するために原寸図を描いた。



製材・墨付け



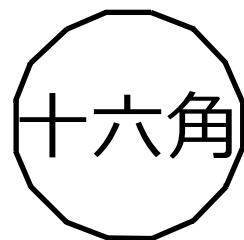
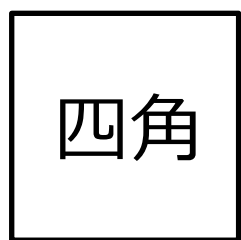
- ・原寸図を元に寸法を割り出す。
- ・鉋による仕上げ代を考慮した製材。

- ・尺杖の作成
（尺杖：基準の物差し）
- ・材料の番付
（番付：位置を示す座標）

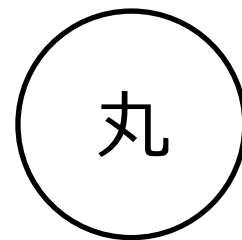


加工 柱

・丸柱は角材の状態から、8角、16角、32角・・・と徐々に角を落としていき、最後は内丸鉋で丸に仕上げる。



...



加工

なげし 長押



・長押の四隅の部分は、木口（木の断面）が見えないようにお互いを45度で切って納める「留め」という技法を用いた。



加工 建具周り



- ・板戸の反りを防ぐため、^{はしばみ}端喰という反り止め材を入れる。
- ・観音開きとなる板戸の軸部分は板戸から削り出している。



加工 破風



- 原寸図から作成した型板を用い、削る。
- 前後で形が異なり、それぞれの型板を必要とする。



まとめ

- ・今回、助成金は祠及び台座の木材代、塗料やビスなどの各種金物代として利用した。
- ・生徒は、知識や技術を学ぶだけでなく、ものづくりは1人の力では出来ないことや、渡す相手がいることなども学んでくれた。

【生徒の感想】

- ・実際に会い、想いや歴史を聴き、熱心に取り組むことができた。
- ・技術力・忍耐力・集中力を培うことができた。
- ・協調性や責任感を感じることもできた。

